

大西さんとは2018年12月から基礎物理学研究所で同僚として勤務しましたが、2022年3月に私が中国へ赴任する直前(おそらく2月末)に京都でお会いしたのが最後になってしまいました。それ以前の一年程、コロナ禍も相まって赴任の見通しがたたない大変な時期がありましたが、度々居室にいらしては声をかけて頂きました。赴任の見通しがたってからはその頻度が減ったことから、気にかけて頂いていた事が分かりました。

大西さんとの会話では、これまで指導してこられた学生や共同研究者の近況を気にかけておられる事がしばしば感じられました。もしご存命であったならば、還暦の記念研究会などはこれまでのご尽力のひとつの現れになるのではないかと、ご存命時から密かに思っていました。それが実現しなかった事が非常に残念に思われます。

振り返ってみると、初めてお会いしたのは、旧都立大学で開催された物理学会で初めて講演をした際に、質問して頂いた時だったかとおもいます。その際も、初めて学会講演を行う他大学の学生をも気にかけて質問して頂いたのではないかと思います。実際、私が基礎物理学研究所に在籍時に、学会での学生への質問は職務と考えていると、別の文脈で話されていました。私が初めてお会いする以前から亡くなる直前に至るまで、若手研究者の育成や研究分野の運営にご尽力頂いた事を今になって強く実感します。しかも、すべての人を盛り立てるやり方を長年継続されてこられた事に関して、余人を以て代えがたい存在であったと思います。

10カ月程経った今でも実際に起きた事とは思えないような感覚です。急な事で、今となってはご冥福を祈る事しかできないことが残念で仕方がありません。

服部 恒一 (浙江大学)